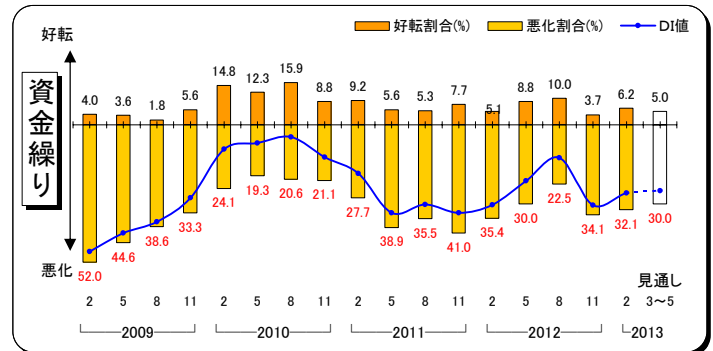
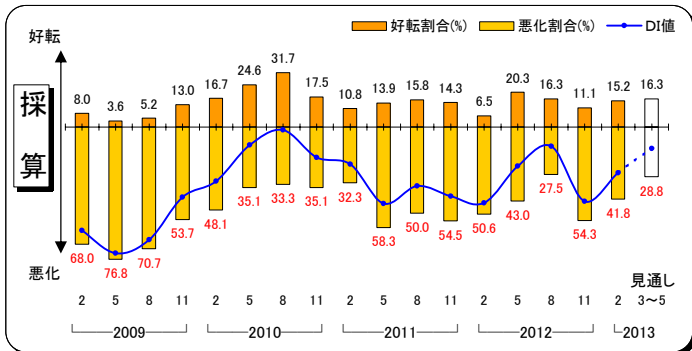
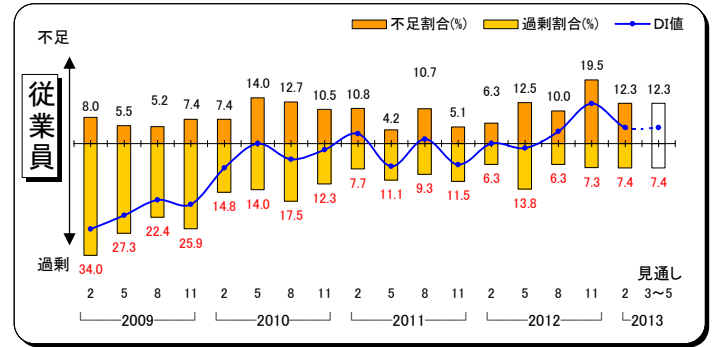
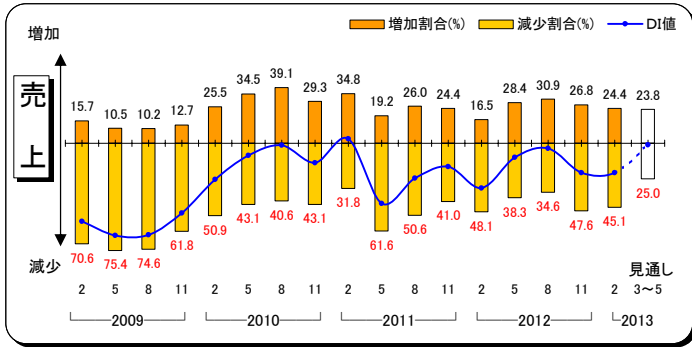
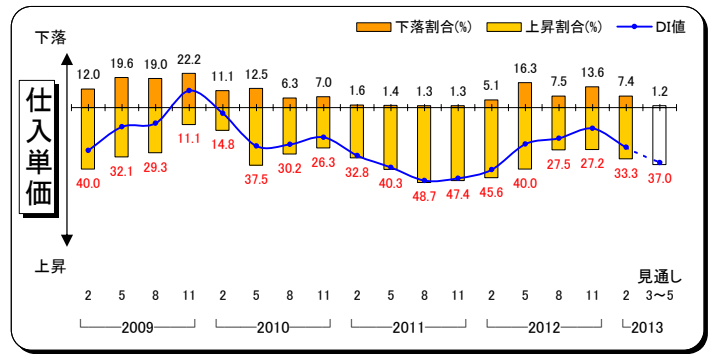
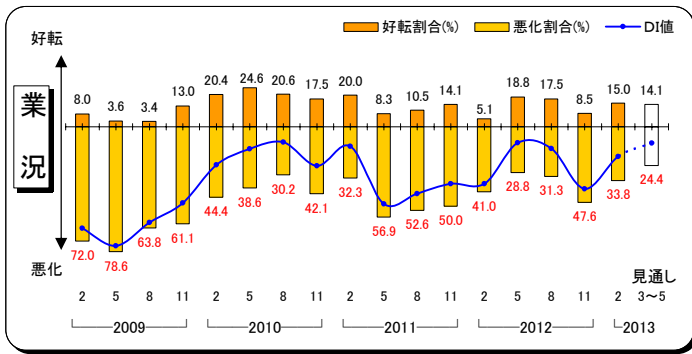


【製造業】①



【製造業】②

企業の声（順不同）

集積回路製造業	円安のため、海外からの仕入で厳しい状況にあります。円安・株高により目に見えて回復する大手企業も中にはあるでしょうが、リーマンショック後円高が長く続いたため、多くの大企業は景気回復に時間がかかるでしょう。大企業の景気回復の影響が中小企業に及ぶまで、1、2年かかると考えています。ただし、当社取引先の手家電メーカーに限って言えば、現在も稼働率が非常に悪い状態です。資金繰りについては、ここ3年ほど良い話がありませんでしたが、2月に入り金融機関の目が中小企業に向き始めているように感じています。
木製家具製造業	同業者の倒産・廃業が目立ってきている。対面営業を強化しているが、なかなか思うように成果が出ない。製造業の明日はどっちだ！
生コンクリート製造業	4月から大型ショッピングモールの出店が本格的に始まる。一方、マンション等の住宅建設は低調である。
水産食料品製造業	主要原材料を輸入に頼っているため、ここに来ての急激な円安により、仕入単価が上がって来ている。今後採算が厳しくなることが予想される。
オフセット印刷業	受注から納品までの工程の見直し（製品の流れを良くし、お客様に如何にスムーズに納品できるか、無駄を省き如何に利益に繋げるか）を当社のスローガンとして、平成25年をスタートいたしました。朝礼等の際に、社員各自で気がついた事柄を発言してもらい、意見を交換する場を作っております。
環境プラント装置製造業	今年（2013年）に入ってから、引き合いが増加しており、徐々に受注に結びついていきます。しかし、資金回収の面では相変わらず厳しい状況です。客先の期日払いや手形払いのサイトが長く、資金繰りを圧迫しているのが現状です。
生産用機械器具製造業	政権交代後、急速に景況が回復している。デフレ脱却は急務だが、過度のインフレ傾向とならないか警戒している。
金属工作機械製造業	景気の低迷、及び長引く在庫調整等により先行き不透明です。以前は当社主力の建機部品が売上の80%を占めていましたが、現在は3分の2程度になっています。そのかわり専用機の売上が全体の20%から40%に増えており、売上全体的大幅な減少を食い止めています。
金属製品製造業	公共事業関係の補正予算、本予算が以前に比べ大分増額になると報道されています（今までが削減し過ぎであったように思います）。当社及び関係先では速やかに執行されるよう、期待しています。
業務用機械器具製造業	このところの円安による輸出産業（特に電子産業）の業績回復と、それに伴う設備投資の増加を期待しているが、未だ明るい兆しが見えない現状である。
物流運搬設備製造業	取引先企業が生産拠点を海外に移転させる動きや、国内生産拠点を統合する動きがあり、先行きに不安があります。
コンクリート製品製造業	例年ですと年度末に仕事量が増加するのですが、今年はその傾向がありません。今後仕事の確保が厳しくなるのではとっております。
オフセット印刷業	印刷物の仕事量が少なくなってきている。
紙以外の印刷業	主力である自動車関連の仕事がほぼ順調に受注できており、売上は若干の増加になっている。しかし、金型・治具・材料の先行投資が増加しており、売上回収・現金化までのタイムラグ（約6ヶ月）があるため、当面採算と資金繰りは悪化となる。このまま受注が減らずに続けば、何とかバランスが取れるのは今年の年末位になる見通し。途中で減産にならないことが前提である。
オフセット印刷業	販売価格の更なる低下が続いています。同業他社との価格競争が激化！
電子デバイス製造業	関心事項：円安、電気料金の値上げ